

北尾春圃 医案②

一人。年三十五。霍乱吐瀉。手足微冷、脈虚微。参附湯、附子理中湯を与うることに数貼。効無し。脈絶して冷汗流るるが如し。両手冰冷肘に至り、且つ嘔して薬を吐す。死須臾に在り。

予以為（おもえ）らく、脈無しと雖も嘔吐を為す者は升る氣有るなり。知りぬ、陽未だ絶せざることを。猶心を潜めて之を候うに、腎間の動悸の在る有り。声音も亦根有り。知りぬ、是れ実の虚に似たるを。

之に与うるに檳榔一錢を以てして吐頓に止む。手足温暖、冷汗止みて脈見（あら）わる。連進すること三錢。食を思ふ。不換金正氣散を以て調和して安んず。脈絶して生くる者の有るに非ずや。